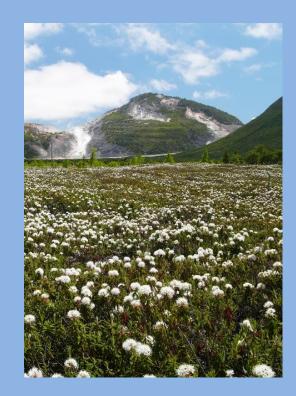
## KAWAYU

# つつじヶ原



阿寒国立公園

## お問合わせ

### 川湯エコミュージアムセンター



開館日/開館時間 4月~10月 8:00~17:00 (無休·4月水曜休館) 11月~3月 9:00~16:00 (水曜休館) 休館日 12月29日~1月3日 入館料 無料 088-3465 北海道川上郡弟子屈町川湯温泉2-2-6

TEL 015-483-4100 FAX 015-483-4111

#### つつじヶ原自然探勝路

川湯エコミュージアムセンターからつ つじヶ原を経て、硫黄山まで自然探勝路 が整備されています。道は起伏も少なく、 誰でも気軽に歩くことができます。

センター周辺は、アカエゾマツ、ミズナラ、シラカンバなど針葉樹と広葉樹の溶け合った森です。つつじヶ原に入るとその植生が高山性のお花畑に一変します。 センターから終点の硫黄山までは片道約2.7 km。約1時間の探勝路です。



## イソツツジ (ツツジ科)

高さ 0.5~1m になる常緑の低木で、高 山性の植物ですが、海岸や湿地にも生えま す。花は枝先に直径 1 cmの小さい花を一枝 にたくさんつけます。

花の一つを良く見ると、花弁は5枚、雄 しべ10本、雌しべ1本からなります。6 月中旬から7月上旬にかけて、一面白い花 が咲き、別世界のようになります。



## 硫黄山

硫黄山は川湯温泉から道道 52 号線 を川湯温泉駅方面に向かうと目前に姿 を現します。今なお噴気を上げる姿は、大地の息吹を感じさせます。

硫黄山はアイヌ語で「アトサヌプリ」といい、アトサは「裸の」、ヌプリは「山」を意味しており、その名のとおり植生に厳しい裸の山です。この山は二重式の溶岩円頂丘で標高は512m。噴気孔は大小1500以上あり、白い噴煙を上げながら、硫黄の結晶をつくっています。



### 低地のハイマツ

ハイマツは主に高山帯に生育しますが、標高 160m 前後のつつじヶ原の低地に、このような群生をつくることは、ほかでは見られません。

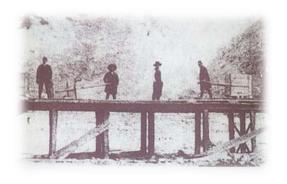
本来の生息地である高山では、厳しい 環境のため、それほど樹高は高くなることは少ないようです。しかし、標高が低いつつじヶ原では風雪の影響も少ないので、背丈が高くなるのが特徴です。



## 硫黄山の歴史

硫黄山は硫黄鉱石の豊富な山として知られ、明治 10年から採掘が始まりました。事業を引き継いだ安田財閥の祖・安田善次郎は、事業の近代化を図るため、標茶に最新の精錬所を建設し、明治 20年に硫黄山と標茶間に北海道で2番目の鉄道を敷設しました。

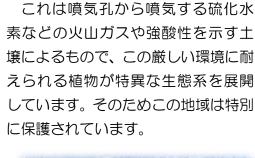
硫黄採掘による繁栄は釧路川(標茶-釧路間)に小型蒸気船が就航するなど、釧路地方に近代の夜明けを告げる歴史の始まりともなりました。



## 木の仲間ガンコウラン

本州では高山にしか見られないガンコウランが生育しています。高さは10 cmほどですが、草ではなく木です。地面を這うように成長し、枝分かれします。

春の雪解けの頃、一番に花を咲かせますが、花の時期が短いため、なかなかその姿が見られません。しかし、秋に歩くと可憐な濃い紫色の実をつけた姿が観察できます。



特異な景観

硫黄山周辺は火山の影響による特

異な景観として知られています。麓に

広がるつつじヶ原の標高は 150m。

そこにハイマツ、イソツツジ、ガンコ

ウランなどの高山植物が広さ

100ha にわたって自生しています。



## ハナゴケは地衣類

つつじヶ原の地面をよく見ると、薄緑色をした植物のようなモノが覆っているのに気が付きます。これはハナゴケと呼ばれるもので、コケの名がついていますが、地衣類の仲間です。

このハナゴケは火山灰の流出を防いだり、雨のあとの潤いを保つ役割を果たしているともいわれています。



